

機械器具 32 医療用吸引器

一般医療機器 再使用可能な汎用吸引チップ（JMDN：38749000）

販売名：M-562 バックフラッシュハンドピース

【禁忌・禁止】

1. 本品の二次加工（改造・調整等）は絶対にしないこと〔折損及び本来機能を損なう原因となるため〕。
2. 使用前にシリコーン部に異常がないかを確認し、劣化が見られる場合には使用を中止すること〔眼の損傷及び本来機能を損なう原因となるため〕。
3. 先端にシリコーンの付いたニードルの使用は、3回を限度とすること〔シリコーンの劣化による脱落/破損を予防するため〕。

【形状、構造及び原理等】

筒状の本体の中にシリコーンパーツを装着、接続ネジ部にニードルを装着、本体の窓から見えるシリコーンパーツの孔を指で操作塞いだり開放したりし、吸引量を調節する。先端に取り付けたニードルの端にシリコーンが付いているものは、眼組織を傷つけずに擦ることが可能。

外観写真



形状及び寸法

■ニードル形状



■タイプ別商品名（構成：本体×1本、シリコーンパーツ×1ヶ、ニードル×1本）

		M-562Aタイプ		M-562Cタイプ	
全長		140mm		198mm(先端から本体まで140mm)	
先端形状		型式	商品名	型式	商品名
フラッシュタイプ	20G	M-562A	バックフラッシュハンドピース 20G	M-562C	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 20G
	23G	M-562A-23B	バックフラッシュハンドピース 23G フラッシュタイプ	M-562C-23B	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 23G フラッシュタイプ
	25G	M-562A-25B	バックフラッシュハンドピース 25G フラッシュタイプ	M-562C-25B	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 25G フラッシュタイプ
	27G	M-562A-27B	バックフラッシュハンドピース 27G フラッシュタイプ	M-562C-27B	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 27G フラッシュタイプ
ソフトタイプ	23G	M-562A-23S	バックフラッシュハンドピース 23G ソフトタイプ	M-562C-23S	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 23G ソフトタイプ
	25G	M-562A-25S	バックフラッシュハンドピース 25G ソフトタイプ	M-562C-25S	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 25G ソフトタイプ
	27G	M-562A-27S	バックフラッシュハンドピース 27G ソフトタイプ	M-562C-27S	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 27G ソフトタイプ

■交換用部品（別売）

適用機器	型式	商品名	全長	先端の径
M-562A用	M-562AH	バックフラッシュハンドピース 本体	105 mm	—
M-562C用	M-562CH	バックフラッシュハンドピース エクストルーション 本体	105 mm	—
M-562A用	M-562B	M-562A用シリコーンパーツ(5ヶ)	35 mm	—
M-562C用	M-562D	M-562C用シリコーンパーツ(5ヶ)	150 mm	—
共通 フラッシュタイプ	M-562E	フラッシュニードル 20G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:0.2mm×6箇所)
	M-562E-23B	フラッシュニードル 23G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:0.2mm×4箇所)
	M-562E-25B	フラッシュニードル 25G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:0.2mm×4箇所)
	M-562E-27B	フラッシュニードル 27G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:0.2mm×4箇所)
共通 ソフトタイプ	M-562E-23S	ソフトニードル 23G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:ナシ)
	M-562E-25S	ソフトニードル 25G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:ナシ)
	M-562E-27S	ソフトニードル 27G(3本入)	45 mm	1mm(切込みみ:ナシ)
	M-562F	ソフトニードル 20G(6本入)	44 mm	—

【使用目的又は効果】

眼科手術・治療時に眼組織（網膜・硝子体・皮膜など）を擦ったり、吸引を調節又は指示する。

【使用方法等】

本体上部の接続用ネジを外し、ニードルの樹脂部分を挿入後、接続用ネジの隙間に針を通しながら接続用ネジを取り付け、停止するまで回転させて固定する。本体の窓から見えるシリコーンパーツの孔を指で操作塞いだり開放したりし、吸引量を調節する。
先端に取り付けたニードルの端にシリコーンが付いているものは、眼組織を擦ることが可能である。滅菌方法：高圧蒸気滅菌

【使用上の注意】

1. 使用前に必ず洗浄・滅菌（保守・点検に係る事項参照）をすること。
2. 使用目的又は効果に記載された内容の範囲を超えて使用をしないこと。
3. 折損、曲がり等の原因になり得るので使用時に必要以上の力（応力）を加えないこと。
4. 電気メスを用いた接触凝固は、術者が感電、火傷をする危険性があり、また、器具の表面を損傷するので併用しないこと。
5. 塩素系及びヨウ素系の消毒剤は、腐食の原因になるので、出来るだけ使用を避けること。使用中に付着したときには水洗いすること。
6. 使用後は、付着している血液、体液、組織及び薬品等が乾燥しないうちに直ちに洗浄液等に浸漬すること。また、必要以上の浸漬は表面を劣化させるおそれがあるので、洗浄液の適正な用法用量（時間）で浸漬後、蒸留水で洗い流し、十分に乾燥させること。

【保管方法及び有効期間等】

1. 高温・多湿・直射日光を避けて保管すること。
2. 滅菌したものを保管するにあたっては、再汚染を防ぐため清潔な場所に保管するとともに有効保管期間の管理をすること。
3. 先端部にシリコーンの付いたニードルは、使用を3回以内とすること。

【保守・点検に係る事項】

1. 使用前に汚れ、傷、曲がり等の異常がないか点検すること。
2. 洗浄／滅菌を装置で行う場合には、器具同士が接触して微細な先端部を損傷させないように隔離されたシリコンメッシュマットあるいはラック式滅菌用コンテナ等にセットすること。
3. 洗剤の残留がないよう十分にすすぎをすること。仕上げすすぎには、浄化水（濾過、蒸留、脱イオン化等）を用いることを推奨する。
4. 強アルカリ／強酸性／塩素系／ヨウ素系の洗浄剤・消毒剤は、器具を腐食させるおそれがあるので使用を避けること。
5. 金属たわし、クレンザー（磨き粉）等は、器具の表面が損傷するので汚物除去及び洗浄時の使用はしないこと。
6. 使用後は、出来るだけ早く血液、体液、組織等の汚物を除去し、職業感染防止のために洗浄・消毒すること。
7. 使用後は、付着している血液、体液、組織及び薬品等が乾燥しないうちに直ちに洗浄液等に浸漬すること。また、必要以上の浸漬は表面を劣化させるおそれがあるので、洗浄液の適正な用法用量（濃度・時間）で浸漬後、蒸留水で洗い流し、十分に乾燥させること。
8. 点検後、セット・包装をし、高圧蒸気滅菌をすること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者 株式会社イナミ

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目24番2号

TEL 03-3814-1731 / FAX 03-3814-3334

製造業者 株式会社 ハセガワ・ビコー